

競争教育を推し進める動きに対して

子どもの権利条約をいかにした取り組みを

地域から広げよう!

アジアの子どもらが手をたずさえ、考え感じたことを表現し伝える『子どもコンサート』の意義は増している! 大きく広げ成功を!

8月2日〜3日『変えよう!』

戦争と貧困のない社会へ! 世界の人々とともに! 2008年ZENKO大会が京都で開催されました。子ども全交の多くの仲間は「やめる全国学力テスト・体力テスト」STOP! 差別・選別の競争教育」の分野別討議に参加しました。

関東実行委員会の佐々木さんから以下の内容で基調報告が行われました。

「学力テスト」の現状

① 外務省が国連「子どもの権利委員会」に134ページにわたる第三回政府報告書を提出

② 報告書は、国連「子どもの権利委員会」からの二度の勧告にこたえず、競争教育をさらに激化させる日本政府の姿勢が示される内容であり、子どもの権利そのものの姿勢は皆無といえる。

*競争教育について、指摘は当たらないと居直り

*不登校、高校中退、いじめ、校内暴力について、課題認識はあるものの、無策。

*保育については、民営化路線を自画自賛。

③ 日本の子どもを取り巻く状況は悪化している

*「学力テスト」の強行とそれに続く唐突な「体力テスト」の実施。矛盾が明らかになる中で学テの二回目実施。

*和田中学に代表される地域を組織した選別・競争教育の進行、激化。

*社会の貧困化に対応する就学援助の増加、学費負担の増大、公教育の破壊

*物言えぬ学校現場、教員管理の徹底。人事評価システム強化

*不登校を選択した子ども(親)への登校強要

「この情勢を変えるために」

① 「全国学力テスト・体力テスト」離脱を求める請願・陳情など自治体への行動を取り組もう。「受検しない子ども」「回答用紙提出を希望しない子ども」の権利を保障する学校への取り組みを強めよう。

② 「全国学力テスト・体力テスト」結果公表をしない、「学校選択制」「習熟度別学習」をさせない地域行動を子ども・市民・教職員を結んで広げよう。

③ 「貧困による教育の機会からの子どもの排除」を許さず「高等教育の無償化」「給付制奨学金の実現」など「子どもの権利条約」を生かした教育運動を地域から作り、条例制定の運動を開始しよう!

④10月26日(関西)国際子ども
権フォーラムに取り組み、子
どもの声を要求化して、国連子ど
もの権利委員会への意見書作り
を進めよう。
以上のような、方向性が提案され
ました。

先行例から学び広げよう

基調報告をうけて、各地域(大
阪市堺・松原、大津市、府中市、
豊中市、横浜市、足立区など)か
ら取り組みの報告と、論議がなさ
れました。

特に、7月30日に「全国学力テ
スト・体力テストへの不参加を求
める申し入れ書」を教育委員会に
提出したばかりの大津市の報告は、
新鮮でした。大津市では、これま
で四回子ども権利条約の学習会
を地域の親、数人で重ね、その学
習や話し合いを踏まえ申し入れ書
を作成してきたそうです。

申し入れ書の内容は、アメリカ
の教育の現状を指摘。「全国一斉テ

スト」の義務化により「全体の
学力」と「高校生の卒業率」が
下降し、教育だけでなく医療さ
えもまともに受けられない子ど
もたちが急増、その先には軍隊
しかないような軍の勧誘がある
こと、日本での学力テストも同
様の道をたどる危険性があると
明確に批判しています。

学習会の積み重ねの中で、要
請行動に参加する仲間が増えて
きている事を心強く感じました。

今年も11月23日、24日『ア
ジアは友だち 子どもコンサ
ート』が開催されます。

8月3日京都において、関
西、関東の中学生の代表が6
名集まり、実行委員会がスタ
ートしました。今年のコンサ
ートの成功に向けて、意見交
換しました。

「わかりやすいコンサートに

『子どもの権利条約』 守れの教育運動を!

子どもの権利条約は、あら
ゆる子ども問題を考える際に
欠くことのできない国際基準
です。しかし、日本政府は現
在、この基準に逆行するよう
な動きを矢継ぎ早に出してい
ています。これに抗して、子
どもの権利条約、特に、意見

書提出を求めよう。

子ども権利条約に向け始動!

したい「テーマは、詰まる所
“平和”かな?」と関東。「世
界と交流を深めよう」に決定
して役割分担も決まっている
関西。これまでのコンサート
を振り返りながらイメージを
共有しました。

子どもの権利条約守れの教育
運動を地域から作り出しまし
よう!

子どもの声を要求化し、国連
子どもの権利委員会への意見書
作りを進めよう

子どもたちが自分たちの思い
を表現し、人々に伝えようと
しているコンサートの意義が、ま
すます重要になっています。子
どもの権利条約を学び、豊かに
語り、子どもコンサートを広げ
よう。

そして子どもたちが生き生き
と参加し、作り上げるコンサ
ートを見守り、全力で支えてい
きましょう。

(関東実行委員会 大久保)